

Code プロジェクト調査報告書（アートと地域）

事例報告：小磯記念美術館

1. 調査対象：神戸市立小磯記念美術館

- ・ 開館時間：午前 10 時～午後 5 時（入館は 4 時半まで）
- ・ 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝休日のときはその翌日）
- ・ 入館料：一般（個人 200 円・団体 160 円）、高校生・大学生（個人 150 円・団体 120 円）、小学生・中学生（100 円・70 円）※団体は 30 名以上
- ・ 利用案内：JR 住吉駅・阪神尼崎駅乗換え、新交通六甲ライナー「アイランド北口」駅下車（住吉から 7 分、魚崎から 5 分）西へ徒歩すぐ・六甲アイランド公園内
- ・ 美術館の概要：六甲アイランド公園内に、平成 4 年 11 月に開館。
神戸ゆかりの洋画家小磯良平氏の亡くなった翌年に、作品やアトリエ、その他資料などが、ご遺族より神戸市に寄贈される。その後、神戸市は小磯良平の偉業を顕彰し、作品の収集、保存、調査研究、普及活動を行っている。（美術館ホームページから）

2. 地域貢献の考え方について（学芸員のお話から）

小磯記念美術館は東灘に数ある美術館の中でも、地域との結びつきを強く意識しており、数多くの事業やイベントを開催している。来館した人たちに作品の一方的な解説をするだけでなく、ワークショップなどを開いたり、スタッフの出張授業や資料などの貸し出しも行っており、芸術に触れる機会を積極的に作っている印象を得た。小磯記念館では、美術館・学校・地域の連携、つまり、社会教育として美術館を利用してもらうことがこれからの美術館・博物館に求められることだと考え、それを基に色々な事業を提案している。

しかし、こういった美術館・学校・地域の連携を文部科学省も目指しているが、多くの美術館では実践できていないのが現状らしい。それには、連携をするにもどうしたらいいかわからない美術館側の事情もある。幸い、小磯記念館には元教師の学芸員がおり、学校との連携をコーディネートする役に回っているので、学校側の要望も聞きやすく、うまくいっているようだ。しかし、一番大事なことは、双方がやる気になっているかいないかだという。学校の子どもたちが、美術館で何かを感じとって芸術に興味を持ち、将来何かしらの形で地域なり美術館に還元してくればそれでいい、成果を見るには時間がかかるが、やりがいのあることだし、これからの美術館はそうあるべきだ、と学芸員さんは語ってくれた。美術館のあり方や芸術が地域に対して出来ることを大いに考えさせられる話だった。

もちろん子どもだけでなく大人、特にシニアの世代にも納得のいく美術館を小磯記念館

は目指している。定年を迎え時間に余裕があり、美術・芸術の分野の知識が豊富な方々にも満足してもらえる美術館でなければ客足は遠のく。それには、その美術館の強みとなる分野を充実させることが重要だ。小磯記念館の場合、小磯良平氏の作品に関してほかの美術館に負けていては何の意味もない。

特色のある美術館だとしても、その地域に住む人があまり来なかったり、場所は知っているけど何をしているか知らない、というのもあまり美術館の意味がない。親しまれる美術館でないとこの先残っていけない。そのためには地域の人々に美術館を認識してもらうことが鍵となる。その一環として小磯記念館では、美術館近くの通りを利用して、毎年秋にアートカプセルというイベントを主催している。内容としては、ひとつのテーマを基に若手芸術家のパフォーマンスやワークショップ、展示、販売などを行っている。ヨーロッパでは、こういうイベントはよく見られるらしい。「地域の人々に美術を身近に感じてもらい、美術館と地域の結びつきを考える」このイベントは、まだ3年目だが、ゆくゆくは地域のお祭りになって欲しいと美術館側は考えている。学芸員さんは、「毎年秋が来たら、小磯記念館の近くでなにやらイベントをしているなあ。」と最初はこれだけ思ってくれるだけでいいと言う。これが積み重なっていけば理解も深まっていくだろうし、いつかは地域にとってなくてはならないものになってくる。そうすれば、このイベントを主催する美術館の存在意義も出てくるからだ。まだまだ近隣の住民の理解も少なく、色々と四苦八苦している模様だが、東灘以外の人も訪れたり認知度は高まっているようだ。去年のパンフレットを見せてもらったが、パンフレット自体ポップな感じで堅苦しくなく、子どもから大人まで興味をそそるようなデザインで少し驚いた。小磯記念館のイメージとだいぶ違ったからだ。内容もさることながらパンフレットを見ただけで行ってみたいなあと思った。これからもずっと続けていって欲しい。

最後に、たくさんの美術館や博物館があるんだから有効に使おうと、学芸員さんは言っていたが、確かに日ごろから美術館へ行こうとはあまり思っていなかった。自分が疎いだけかも知れないが、日本にはまだまだ芸術が身近にあるとは感じられない。芸術が高尚なものでなく身近に感じられるために、小磯記念館のような活動がどんどん増えていって欲しいと思うし、同時にもっと積極的に個人が芸術へ触れようと意識することが大事なように感じた。

3. 調査を終えて

今回の調査で、美術館ごとに地域との関わり方が色々あるなあと感じた。小磯記念館は熱心なほうで聞いている自分たちも楽しかったし、話している向こう側も話しに熱を帯びていた。気がする。特にアートカプセルの話は、自分たちのテーマにドンピシャだったので、機会があれば追加調査したい。